

# ブック村だより

## 本学コレクション紹介(12)

J・S・ミル「サラ・オースティンへの手紙」(1848) …… 高橋 哲雄 (1)

**特集** 書庫の一隅にて …………… 菊池 光造 (2)

ぶっくす・なう…………… (4)

『龍 (ロン)』 谷岡 一郎

『アディダスvsプーマ』 中野 安

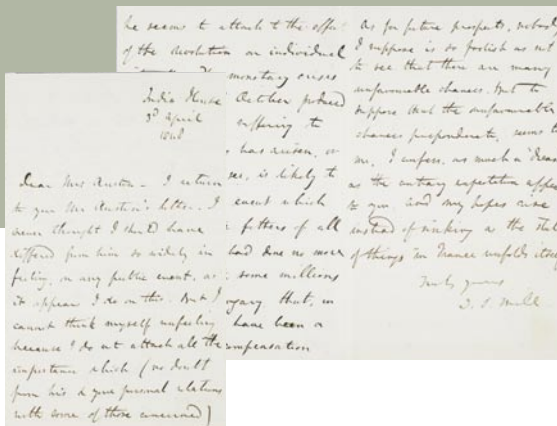
『底なし沼』 佐和 良作

『パンツが見える：羞恥心の現代史』 下山 晃

学生の声…………… (6)

新図書館ホームページのご案内…………… (7)

インフォメーション・開館案内…………… (8)



## 本学コレクション紹介(12) J・S・ミル「サラ・オースティンへの手紙」(1848)

本コレクションにはJ・S・ミルの書簡13通があり、うちサラ・オースティン宛の1848年4月3日付の手紙を今回は紹介しよう。ひとつには書誌的興味からで、この手紙は、もっとも権威あるトロント大学の全集第8巻(1963)に収録されてはいるものの、日付が「3月(?)」とされ、かつ「所在不明」となっているからである。おそらく現物確認ができなかったので、1910年全集の記載を踏襲したのであろう。

もうひとつには、この年はミル自身は主著『経済学原理』を完成させた記念すべき年であり、またヨーロッパではフランスで2月革命が吹き荒れ、3月にはその影響下にハンガリーで農奴制が廃止された年である。革命への積極的な評価が、13歳年長の女友達宛に、保守的な法学者である彼女の夫への批判をつうじて開陳されるという興味ぶかい内容となっている。ミルの一面が生きいきと投影されている。ミル、この年42歳。

(名誉教授 高橋哲雄)

## 特集 書庫の一隅にて

商大図書館5階の古い蔵書を見ているときに、茶色に変色した紙質の悪い本に気がついた。これは河合栄治郎著『社会政策原理』（初版昭和10年／1935年）であり、いま手にしているのは終戦後の昭和22年（1947年）、『河合栄治郎選集』第3巻（570ページ、日本評論社）として再版されたものである。敗戦後の当時は印刷用の紙などなかなか手に入らない時代だったが、自由な言論が復活し読書に飢えていた学生たちのためにも、ザラ紙を使って急遽印刷されたものであり、学生たちは眠る間も惜しんで本を読みふけたのである。いま社会思想や社会政策を研究領域とする私にとって、この本はさまざまな想念をかき立てる。

何よりも、この本は、日本が第2次大戦に踏み出しつつあった昭和13年（1938年）に発売禁止処分にされたものであった。河合は別に危険思想の持ち主ではなく、徹底した自由主義者だったが、時代はそれを許さなかったといえよう。

河合には『トーマス・ヒル・グリーン の思想体系』という著書もあり、彼自身グリーン の思想に心酔して、この「社会政策原理」もその立場で貫かれている。そのトーマス・ヒル・グリーン は、19世紀末にイギリスで台頭した「新自由主義」思想運動の中心人物であった。それまでのイギリスは、古典的な個人主義的自由主義に浸されて、生活問題や貧困などは個人の自己責任の問題とされ、個人的慈善は奨励されても国家による社会政策・福祉政策は極小化されていたのであった。しかし、19世紀第4 四半期の長く深い不況は、大量の失業・貧困とともに、イギリスに社会主義運動の台頭をもたらし、こうした歴史の現実に直面した個人主義的自由主義の対応形態が、トーマス・ヒル・グリーン の理想主義・人格主義を内容とし、社会改良をも視野に置く「新自由主義」であ

ったといえる。念のためにふれておけば、近年フリードマンやハイエクの名とともに、市場原理と自由競争を重視する考え方が「新自由主義」と総称されることが多いが、思想史的に言えばこれは旧自由主義の再来であり、真の「新自由主義」とはグリーン の時代に現れたものをさすのである。

グリーン は、その倫理的立場から「理想社会への接近」を思想運動の課題としたが、その場合、理想的な社会とは「社会の成員すべてが人格の完成を実現し得るような社会」であるとされた。ここで時代状況を反映したグリーン の思想に特徴的なことは、人格の向上・完成を個人の努力に任せればよいという考えをとらなかったことである。彼は、自由な個人の人格の完成・自己実現のためには、これを可能にする「環境」＝「社会的条件」が必要であるとした。失業や貧困、総じて社会問題を解決して、個人の人格完成の基盤を整備することは「社会の責任」である。かくて自由放任ではなく、自由主義の延長線上に国家による社会改良の営為・政策実践の必要性和必然性を位置づけたのであった。こうした「新自由主義」の思想的土壌の中から、やがてケインズ経済学や、ウィリアム・ベヴァリッジの「社会保障プラン」も生み出されることになるのである。

ところで、「ドイツ・日本型」社会政策論が主流を占めた戦前の日本で、いま私の手の中にあるこの本の著者であり強烈な個性を持つ自由主義者河合栄治郎が、みずからの社会政策原理を構想するに当たって、イギリス的自由主義・倫理主義の到達点であるグリーン の思想体系の中に拠り所を求めたのは、卓見でもあり、また必然の成り行きでもあったといえよう。

河合栄治郎は、農商務省商工局に勤務、海外の労働事情を視察して現在の労働基準法にあたる

「工場法」案を起草した改革派官僚であったが、その法案内容をめぐって上司と意見があわず、官を辞して、大正14年(1925年)以降、東京大学経済学部で社会政策論を講じた。一方、『学生と教養』『学生と読書』など学生叢書15巻(これらの多くも商大図書館5階に所蔵されている)を編集・刊行して、戦中・戦後の青年・学生に大きな影響を与えた。その意味で、古き良き日本的教養主義を代表する「教師」であり、自由主義のオピニオンリーダーでもあった。その河合が、戦前期の時代状況の中で思想犯罪に問われたということも、この本を手にして思い起こされる。

昭和13年(1938年)秋、河合の著書『改訂社会政策原理』、『ファシズム批判』、『時局と自由主義』、『第二学生生活』の4冊が、突如発禁処分を受けた。翌14年2月にはこれらの著書が「安寧秩序ヲ紊ルモノ」であるとして河合は起訴され、15年10月に一旦は無罪判決が出るが、検事側控訴によって、東京控訴院(現在の高裁)で有罪判決、昭和18年夏には大審院(最高裁)で有罪判決が確定し、その後一切の文筆活動を禁止されることになったのであった。

ふりかえれば、すでに昭和3年(1926年)いわゆる「三・一五事件」で社会主義派の研究者たちが大学を追われ、昭和8年には人権擁護に配慮する京都大学教授滝川幸辰の『刑法読本』が時の権力によって指弾され、昭和10年には美濃部達吉博士の「天皇機関説」が貴族院で問題化するなど、国家主義・国粋主義思想の波がひたひたと教育・研究の世界にも打ち寄せていた。昭和13年には、マルクス経済学者大内兵衛を、思想的立場を超えて大学人として、学問の自由・大学の自治の立場から擁護した河合栄治郎自身が、その直後に今度は自由主義的著作の責を問われて起訴されるにいたったのである。河合自身は昭和19年2月、終戦を待たずに病死した。しかし、この河合の著書の多くが、戦中・戦後の学生たちによって背文字が擦

れて消えるほどに読まれたことも忘れてはならないだろう。

私は、たまたま手にした1冊の本が呼び起こす思いについて触れた。だが、大阪商業大学図書館の数ある書架の奥には、随所に歴史を映す書物たちが、今日もひそかに息づいているに違いない。

(図書館長 菊池光造)



## 『龍 (ロン)』 (全42巻)

(小学館コミック, 1991.6-2006.7)

村上 もとか 著

ああ、ついに終わってしまったか、というのが正直な感想。少々長すぎた、という人もいるが、別個の話がいくつも詰まったものと考えればよい。むしろもっと続いてほしかった。この欄で漫画を紹介することに抵抗のある方もいようが、字ばかりの本でもクズは多い。逆に漫画と言えど優れた作品はいくつもある。

『龍』は昭和初期を背景に、日本のみならず中国大陸や、より遠くの国々を生き抜いた主人公の名前。裕福な家庭に生まれた、気はやさしいが一本気な男だ。何人もの男性や女性が登場し、話を盛り上げてくれる。武専という、武術専門の学校時代の話が前半、続いて上海を中心とした大陸での活躍が後半。史実的な背景もしっかりしていて、当時の世相をヴィジュアルに知る題材として

も優れている。

村上もとかの特徴のひとつとして、絵が丁寧で上手い、ということがある。人々が1秒で見る絵も手を抜かず、さぞかしアシスタントが大変だな、という感じだ。歴史的な作品を選ぶ基準として、コミックの場合、その絵にオリジナリティがあり、かつ上手くなければならぬと思う。むろん何より、原作がおもしろくなくては話にならない。そうした条件を満たすコミックは、手塚治虫やちばてつやの作品をはじめ、少なくないが、今回終了した『龍』もそのひとつである。他の作品として、『ドロ・ファイター』、『赤いペガサス』などのカーレース物が有名で、あと医療モノの『仁-jin-』もおもしろくおすすめだが、特に『龍』は、村上もとかの代表作として永く残る作品だと信じている。

(学長 谷岡 一郎)



## 『アディダス vs プーマ』

(ランダムハウス講談社, 2006.5)

バーバラ・スミット 著

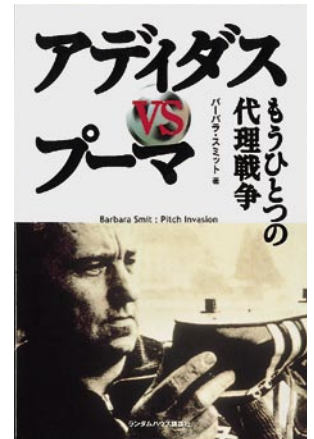
ブランド戦略はマーケティングの領域でますます重視されるようになってきているが、それはスポーツ・マーケティングの分野でとりわけ著しい。例えばサッカー、ゴルフ、バスケット、テニス等、世界的に人気のあるスポーツをテレビ観戦すれば、有名選手が身につけている用具やウェアのブランドが否応なく目に入るだろう——ジダン、ベッカム、中村俊輔はアディダス、ウッズ（ゴルフ）や中田英寿はナイキ、ビデオで見るとかつての有名選手ベレ、マラドーナ、ベッカー（テニス）はプーマ、というように、有名選手がほとんど全員「囲い込まれ」、系列ブランドの広告塔になっていることが分かる。

しかし、スポーツ用品各社が展開している激し

いブランド競争の実情をより深く知りたい人には本書をお薦めする。本書は、ドイツで製靴会社を経営して名をはせていた兄弟がケンカ別れし（1948年）、やがてそれぞれがアディダス、プーマという世界的有名ブランド

を育て上げ、今だにグローバルな規模で激しいケンカ（競争）をしている過程をたどる。しかしそれだけではない。ここに札幌攻勢で参入してきたナイキが加わり、スキャンダルにもまみれたスポーツ・ビジネスの生々しい世界が、日本企業のかわりにも触れつつ、いきいきと描かれている。

(総合経営学部 教授 中野 安)



## 『底なし沼』

(新潮社, 2006.8)

新堂 冬樹 著

本書は、ウェブサイト上で2年間にわたって連載された作品を単行本化したものであり、いわゆる闇金融の世界を対象としている。いうまでもないが、闇金融とは銀行やサラ金から相手にされなくなった人々を相手に、法定外の暴利をとる金貸しのことである。本書によれば、1週間で5割の利息をとる闇金もあるらしい。

ここで問題、「1円をこの闇金融から借りると1年後に借金は複利でいくりに膨らむでしょう」(答えは末尾)。

主人公は、サラ金業者からの借金を完済したのに、債務者が業者から取り忘れた金銭消費貸借契約書、要するに借金証文をサラ金業者から買い取り、再度取り立てる「二重取り」で荒稼ぎをしてい

る。とんでもないことをしているとしか言いようがない。債務者を追い詰め、地獄に叩き落すことによって稼いでいるのだ。

最初から最後まで、本当にこんな恐ろしい世界があるのかという印象を受けながら、500ページ弱を一気に読み終えた。本書のとおりではないにしても、よく似た世界が実際にあるに違いない。

グレーゾーン金利の廃止など、消費者金融の問題が話題になっている。悪徳業者の罠に落ちないためにも、こうした世界に対する知識を持つておく必要がある。この種の本を一度は読んでおくことを薦めたい。(答えは、 $1円 \times (1.5)^{52} = 14億3464万円$ ) (経済学部 教授 佐和 良作)

『パンツが見える  
：羞恥心の現代史』

(朝日選書, 2002.5)

井上 章一 著

鉄棒でクルクル回って遊んでいる女の子を見て。思わず「お～い、パンツ見えとるぞ～！」と大きな声を出し、担任の先生からゲンコツを喰らった、という記憶は、案外、一般的なものではないだろうか？ 評者自身の記憶は定かではないが、何事も率先して実行することをムネとして育てられた評者には、そうした場面でのゲンコツが小学校時代に何度かあったような気もする……。見えていると恥ずかしいであろうから、正直に親切に教えてあげたのに、ゲンコツを落とされたのである。

パンツが見えるという「ただの事実」が、如何にさまざまな心理的・社会的意味を持つかについては、例えばフランスの記号論の思想家R・バル

トなどが色々と難しい考察をおこなっているが、ここに紹介した井上章一の著作は、もっと判りやすく、しかも日本人には大変なじみやすいエピソードがいっぱいである。

著者の井上氏は、氏の他の著作や「朝まで生テレビ」での諸発言からもうかがえる通り、たいへん正直で庶民的な人柄である。「正直・庶民的」というのは、実は学者にとっては最も大切な要素で、そのことはバートランド・ラッセルの『西洋哲学史』を読むとよく判る。「正直」は、いつの時代にも、どんなイデオロギーにも宗教教義にも批判の基準を準備する美德である。正直者は、皆、この本に感服すること間違いナシ。是非ご一読を。

(総合経営学部 教授 下山 晃)



## 『本気で本を選びました』

総合経営学部 経営学科4年 森本 恵一郎

今回、「図書館選書ツアー」のメンバーに選出して頂くという幸運に恵まれた私は、本気で本を選ばせていただきました。なんて気前のいい言葉を並べていますが、実際の私は選書ツアー当日に「大遅刻」という失態をやらかしてしまったのです。「嗚呼、図書館の方に多大な迷惑をかけてしまった、どうしよう……」図書館の方に対する申し訳なさ自分自身の情けなさが絡み合い、正気を失って自暴自棄に陥っていた私に「皆様のニーズに伝えて……」なんて余裕など毛頭なく、結局は自分の好きなジャンルの本を片っ端から選ぶという始末。「とにかく遅れた時間を取り戻すためにも急いで本を選んでしまおう。嗚呼、俺は何て事をやらかしたのだ……」映画に出てくる寅さんではありませんが、あの時の私は、まさしく「焼けのやんばち日焼けのなすび」「男はつらいよ」と嘆きたくなるシチュエーション。「本末転倒」とは、まさにこの事です。

そんな「片っ端」から選んだ本の中でも『いわゆるA級戦犯』は必読です。『ゴーマニズム宣言』シリーズの著者である小林よしのり氏の最新刊。著者はなぜ、タイトルに「いわゆる」という言葉を付け加えたのか？本書を読んでいただければ、その真相が明らかになります。また「いわゆるA級戦犯」のひとりである大川周明氏の著書、『日米開戦の真実』も必見です。ちなみに、これらのエピソードを友人に話してみた所、「お前が遅刻をするのが悪い」と指摘された私は、即座に言い返してやりました。「それを言っちゃあ、おしまいよ！」

ともかくにも、選書ツアーに参加させていただいた私の感想は、本を選ぶ事の難しさを痛感させられたという事です。普段感じる事のない、図書館の方々がこなしている仕事の内容と苦勞（遅刻した学生を待つ事を含めて）を知っただけでも、ツアーに参加した意義があると言えるでしょう。本当にありがとうございました。

10月より設置しました学生選書コーナーの貸出状況は下記のとおりです。

貸出回数 74回 (2006年11月現在)

回数	書名	背ラベル記号	回数	書名	背ラベル記号
5回	イチロー×矢沢永吉英雄の哲学	783.7/I17	1回	世紀のブルース・リー	778.222/L51
4回	いわゆるA級戦犯：ゴーマニズムSPECIAL	726.1/Ko12	1回	兵法三国志：これが中国人だ	222.043/O28
4回	「金本知憲の真実」：鉄人への道	783.7/Ka53	1回	川の深さは	913.6/F76
3回	須藤元氣・幸福論	291.8/Su14	1回	長い長い殺人	913.6/Mi71
3回	天の扉	783.47/B14	1回	Twelve Y.O.	913.6/F76
3回	なぜ偉人たちは教科書から消えたのか：「肖像画」が語る通説破りの日本史	281.04/Ka93	1回	ゲームを斬る	798/Y62
3回	いまさら聞けない会社のカラクリ	335.4/O63	1回	若者殺しの時代	367.6/H88
3回	ちょっとアホ!理論：倒産寸前だったのに超V字回復できちゃった!	335.13/D56	1回	もっと知りたい坂本龍馬	289.1/Sa32
3回	カクテル大全1000	596.7/H96	1回	坂本龍馬：知れば知るほど	289.1/Sa32
3回	機動戦士ガンダムMS大全集2006	778.77/Ki13	1回	これから5年、いよいよ正念場：今からこのように対処しよう	159/F89
2回	日米開戦の真実：大川周明著「米英東亞侵略史」を読み解く	319.1/Sa85	1回	いい会社はどこにある?いい人材はどこにいる?:「伸びる人」と「伸びる企業」の条件	366.29/I89
2回	いまさら聞けない!大人の作法がわかる本	385.9/C49	1回	94%の顧客が「大満足」と言ってくれる私の究極のサービス	673.3/Mi59
2回	音楽がもっとわかる世界地図：音楽の歴史を変えたあの瞬間：世界中が驚いた音楽のターニング・ポイント65	764.7/Se22	1回	曹操：三国志の真の主人公	289.2/So11
2回	音楽がわかる世界地図：今と過去、世界各地の音楽・楽器・ミュージシャンが一冊でわかる!	764.7/Se22	1回	新選組は京都で何をしていたか	210.58/I89
2回	殺人の門	913.6/H55	1回	象の背中	913.6/A35
2回	今さら他人(ひと)には聞けない常識700+α	049/E63	1回	最強ランナーの法則(メソッド)	782.3/I89
2回	超カンタン!DVD・CDコピーファイル共有エミュレータ	547.88/C53	1回	明治維新の思想	311.21/O88
1回	星の王子さま	953/Sa22	1回	抛る：呉書	222.043/C46
1回	夢の続き	783.47/B14	1回	起つ：魏書 上	222.043/C46
1回	あの頃こんな球場があった：昭和プロ野球秘史	783.7/Sa66	1回	成る：魏書 下	222.043/C46
1回	パチンコ「30兆円の闘」：もうこれで騙されない	673.9/Mi93	1回	速く走る!トレーニングBOOK	782.3/Se17
			1回	速く走る!トレーニングBOOK：DVDでみるみる上達	782.3/Se17

# 新図書館ホームページのご案内

今回は、リニューアルされた図書館ホームページの新しいメニューを中心に、活用方法を紹介いたします。



## ▶ 最新情報を一覧できます

画面中央の「TOPICS」メニューで、最新情報が上部に表示されます。これまでの更新情報を、時間を追って一覧することができます。

## ▶ 図書館ツアーを体験してみましょう



「館内案内フォトツアー」

メニューをクリックすると、図書館施設の画像が表示されます。下部の小さな写真は、ゆっくりと左から右へ移動しているサムネイル表示で、マウスの操作によってスクロールし、見たい施設の写真を選択できます。選択したサムネイルをクリックすると写真が画面に表示され、施設について

のコメントが表示されます。



## ▶ おすすめ本をチェックしてみましょう



「BOOK REVIEW — 読書人のページ」

『本に関するコラムのページです。読書の楽しみや効用を分かち合えるよう、様々な本を取り上げていく予定です。』（↑上ページ紹介文より）

図書館報「ブック村だより」中「ぶっくす・なう」のコーナーに寄せられた、学長をはじめ諸先生方の図書紹介や、スタッフによるおすすめ本紹介などを読むことができます。

「ブック村だより」図書館ホームページのロゴマークをクリックすると、本文をPDFファイル形式で閲覧することができます。

今後も皆さんの役に立つ新メニューを検討し、充実させていく予定です。ときどきチェックしてみてください。

## 図書館インフォメーション

### ◆2階フロアに『学生選書コーナー』を設置しました

選書ツアーに参加してくれた学生が選んだ図書を、上記のコーナーに置いています。おすすめ本は、この号の6ページで紹介して下さっています。

### ◆学生スタッフ募集中です

図書館では、学生の皆さんによりよく利用してもらうために、学生スタッフを利用しています。本が好きな方、企画・プレゼンに興味のある方、何となく興味をもたれた方でも結構です。詳しくは館内掲示のポスターをご覧ください。お気軽に図書館職員まで声をかけて下さい。

### ◆平成18年度上半期に寄贈された本学教員著書(教員名50音順(共著は著書掲載順)、敬称略)

※配架場所は、本学教員著書コーナーです。

【笹本長敬】『山—西洋人のアンソロジー』 笹本長敬編訳注. 英宝社, 2006.3

【玉田 巧】【佐和良作】【宮田由紀夫】【豊山宗洋】【水谷 淳】

『現代経済ウォッチング』 八千代出版, 2006.5

【田崎公司】『自由民権の再発見』 安在邦夫, 田崎公司編著. 日本経済評論社, 2006.5

【中津孝司】『伸びる企業の現場力』 阪下宏二 [ほか] 著. 創成社, 2006.4

【中津孝司】『世界情勢を読む』 中津孝司著. 創成社, 2006.5

【長妻三佐雄】『公共性のエトス』 長妻三佐雄著. 世界思想社, 2002.11

【南方建明】【酒井理】『サービス産業の構造とマーケティング』 南方建明, 酒井理著. 中央経済社, 2006.

### ◆卒論作成用の特別貸出について

4年生の皆さんは、卒業論文作成のための特別貸出ができます。延長手続きを行わずに、1ヶ月借りることができます。希望者は貸出時にカウンターまで申し出て手続きを行って下さい。

### ◆卒業してからも図書館を利用できます

卒業生は利用者登録をすると、1年間無料で図書館を利用することができます(更新は何度でもできます)。希望者は卒業式の翌日以降に、身分証明書(免許証、保険証など)および写真(3cm×4cm)1枚を持参の上、図書館2階「利用者登録受付」カウンターまでお越し下さい。

### ◆冬期休暇期間中の長期貸出について

冬休みの学習・研究用に長期貸出サービスを行います。実施期間中は図書の貸出すべてに適用されます。手続きは通常どおりです。詳細は、図書館ホームページ・ポスター・掲示板・配布物でお知らせします。

## 開館案内

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30/31

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

●は休館日です。(開館時間：月～土 9:00～20:00)

上記以外にも臨時休館日を設ける場合があります。

開館日程および時間は変更されることがあります。詳細は学内掲示・モニター・ホームページ等でお知らせ致します。

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第29号

平成18年11月30日

発行

大阪商業大学図書館

〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10

電話(06)6781-5280

FAX(06)6781-0089

e-mail: lib@oucow.daishodai.ac.jp ホームページアドレス: <http://www.lib.daishodai.ac.jp>

ISSN 1346-8928